

## 『地域研究のためのフィールド活用型現地語教育』

### 平成23年度派遣報告書

——ヨルダン・ヨルダン大学、アラビア語、H23.7.7-H23.10.2——

平成 23 年度入学

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

博士課程 1 回生

佐藤 麻理絵

#### 自身の研究テーマについて

私の研究テーマは「現代中東の国家と超域性：難民ホスト国ヨルダンを事例として」である。大きな議論として、国民国家の擬制性に言及し、熱帯乾燥域独自の生存基盤持続型の発展径路を模索し、現存する様々な指標では図り得ない点を指摘したい。国民国家の形成からその擬制性に至るまで、現代中東の形成の歴史から探る。また国民国家の枠組みを逸脱し発生し、グローバルな課題の一つとされている難民問題を取り上げヨルダンの難民受け入れに注目し事例として取り上げる。難民への人道支援と共に恒久的解決策とされた3つの策が限界に達し、長期化した難民状態が指摘されている現状を踏まえる。国連による国際的な難民条約には多くのアラブ諸国が批准をしていない中で、難民の多くはアラブ諸国を中心としたイスラーム世界より大量に発生している。元来より様々な人々を包摂してきたイスラーム帝国は、列強の植民地支配を経て、国境の極度な人口性にみられるような歴史的遺制として現在に至る。ウンマに見られる共同体の意識、異郷からの同胞という認識、地理的な要因により、周辺のイスラーム世界に流入している。歴史的遺制を抱え、西欧近代化・グローバル化に直面するイスラーム世界と故郷での生存基盤を喪失し、新たな生存基盤を築く必要性に迫られた難民を横断的に捉えることで、国際社会が民族自決に基づいた国民国家を前提としている点を指摘し、国民国家が抱える擬制性を証明する。

#### 研修言語の概要

私の研究対象地域である東アラブ諸国ではいずれもアラビア語が公用語とされているほか、中東全域で話されている言語で国連の公用語のひとつでもある。正則アラビア語と呼ばれる、ニュースや新聞などの公式な場で使用されるものと、各地によって異なる方言(アンミーヤ)の2種類が存在する。方言は多様で正則アラビア語との違いは非常に大きい。本研修では、報道内容を理解するとともに全域で通ずる正則アラビア語の習得を行った。

#### 語学研修の内容について

・ヨルダン大学の語学センター (University of Jordan, The International Institute for Teaching

Arabic to Speakers of Other languages) : 週 5 日 (日曜～木曜) 1 時間 40 分の授業が週に 8 回行われた。2 人の先生の下、会話文に基づく教材を用いてリーディング・スピーキングを中心に学んだ。週に一度リスニング中心の授業が設けられ、LAB で聞き取りの試験も行われた。英語に堪能な先生ではなかったが、文法事項などの解説は分かりやすく、生徒全員に発言を求める形式で進められた。宿題についても教材のレッスンごとに多くの問題が用意されたものが出されると共に、様々なトピックについて自由作文を書いて持ち寄り発表した他、添削も行われた。生徒は 25 人ほどいたが、終盤には 10 人弱に減った。

・家庭教師：一カ月程近所に住むシリア人の家庭教師のもとに一对一毎日 2 時間の授業を受けに通った。先生がキリスト教徒であったため、金曜日の休日にも授業を受けることが出来た。先生は英語の指導もおこなっているため、英語が堪能で分からない文法事項や詳細な部分まで理解するまで聞くことが出来た。最初の 30 分強は日常会話を行い、その後新聞やインターネットの新聞社のサイトから記事を選び読むとともに、添削をしてもらった自由作文の解説を受けた。短期間で非常に効率的に学び、力がついた。

・語学センター (民間) : Modern Language Center で一对一 42 時間の授業を受けた。専門的なトピックについてのスピーキング力を強化するとともに、自らの専門に関する本を読み進めた。

### 研修期間中に印象に残った体験や経験

数多くあるうち、一つは毎週のように金曜日の集団礼拝後に行われたデモを間近で見たことだ。取り囲む警察の数や野次の数が勝るような規模のものでありながら、その迫力には毎回圧倒された。二つ目にパレスチナ難民が多く住む難民キャンプを訪れ、その周辺に多く住むイラク人難民の調査でイラク人家庭を訪問したことだ。ワヒダットキャンプにほど遠くない地域に貧困地区が広がり、イラク人難民が多く住む。現地 NGO/NPO も事務所を構えており、それらを訪問するとともに紹介して頂いたイラク人家庭を訪問した。一緒に夕飯を食べ子供たちと触れ合い、インタビューをとることが出来た。三つ目に現地の新聞社である Al Ghad へ訪問したことだ。英字記事のアラビア語翻訳を行っている大ベテランの方と知り合いになり、勤めている新聞社へ招待してもらい見学をした。四つ目にウムカイス遺蹟で発掘を進めている国士舘大学の発掘チームの見学のために現地を訪れたことが挙げられる。

### 目標の達成度や反省点について

毎日アラビア語を聞いて話すことの出来る環境を活かすこと、授業をこまめに入れて常に学ぶ環境に自分の身を置くことを最優先に過した。新聞やテレビ等のメディアに接し、一对一の授業の際に読み込み語彙や表現の数を増やし会話に応用することは、家庭教師及び民間の語学学校を併用し通うことで達成した。一方で大学の語学センターでは各国の生徒と会話をすることで特に聞き取りの分野を強化することが出来た。大学での友達はもちろん、日常生活の中でスークの商人や本屋の主人と話す機会を増やし咄嗟の会話に対応できるように努力した。欧米出身のルームメイトと 3 人で暮らしていたため、家の中では英語を使用していた。ヨルダン人家庭へホームステイ等をしていた方が、アラビア語の使用度は増えていたと思うが、様々な分野・出身の人を家に呼びまた何うなどして交流が出来たため充実していた。自身の研究に関連する本をより多く読み進められたらより良かった。



←ヨルダン大学語学センター  
夏季講座での授業風景



←アンマン中心部  
でのデモの様子→



民間の語学センターにて先生  
とイタリア人の友人（同じく  
語学センターの生徒）と。→

